

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪公立大学工業高等専門学校
設置者名	公立大学法人大阪

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
本科（4年）	総合工学システム学科（エネルギー機械コース）		—	6	6	12	7	
	総合工学システム学科（プロダクトデザインコース）				14	20	7	
	総合工学システム学科（エレクトロニクスコース）				8	14	7	
	総合工学システム学科（知能情報コース）				6	12	7	
本科（5年）	総合工学システム学科（機械システムコース）		—	8	7	15	7	
	総合工学システム学科（メカトロニクスコース）				7	15	7	
	総合工学システム学科（電子情報コース）				9	17	7	

	総合工学 システム学科 （環境物質化学 コース）				5	13	7	
	総合工学 システム学科 （都市環境 コース）				7	15	7	
専攻科 (2年)	総合工学 システム専攻 （機械工学 コース）		—	22	2	24	7	
	総合工学 システム専攻 （電気電子工学 コース）				0	22	7	
	総合工学 システム専攻 （応用化学 コース）				0	22	7	
	総合工学 システム専攻 （土木工学 コース）				2	24	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- WEB サイトで公表
<https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-reg/>
<https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-advanced/>
- シラバスの【授業概要】に実務経験との関係を記載。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪公立大学工業高等専門学校
設置者名	公立大学法人大阪

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公立大学法人大阪のWEBサイトで公表
<https://www.upc-osaka.ac.jp/about/directors/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	(前職) 株式会社大阪国際会議場 代表取締役社長	2023年4月 ～ 2027年3月	総理
常勤	(前職) 大阪府 教育長	2025年4月 ～ 2027年3月	総務、人事、企画、 広報、コンプライア ンス
常勤	(前職) 大阪市 政策企画室長	2025年4月 ～ 2027年3月	財務、施設、渉外、 高専、ダイバーシテ ィ
非常勤	(現職) パナソニックホールデ ィングス株式会社取締 役	2025年4月 ～ 2027年3月	経営全般
非常勤	(現職) 株式会社インターアク ト・ジャパン代表取締 役	2025年4月 ～ 2027年3月	経営全般
非常勤	(現職) 株式会社国際社会経済 研究所理事長	2025年4月 ～ 2027年3月	経営全般
非常勤	(現職) フジモトゆめグループ 代表	2025年4月 ～ 2027年3月	経営全般
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪公立大学工業高等専門学校
設置者名	公立大学法人大阪

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) シラバスは達成目標区分、授業概要、授業の進め方、科目の達成目標、授業の内容、授業外の学習、履修上の注意点、成績評価の方法などから構成している。シラバスは年度当初の学年ガイダンスにおいて配付し、Web サイトでも公開している。また、1 回目の授業時に科目のガイダンスを実施している。	
授業計画書の公表方法	・WEB サイトで公表 https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-reg/ https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-advanced/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価・学年の課程修了及び卒業の認定等に関する規程(以下、「規程」とする)」を定め、各授業科目の履修並びに単位取得の認定を行っている。 (2025 年度 1～4 年次) 規程第 8 条において、総授業時間数の 3 分の 2 以上の出席を有する科目について成績評価を行うことを定めている。各科目担当教員が科目の特性に応じて「成績評価の方法」を定め、シラバスに記載している。各教員は、この「成績評価の方法」に沿って成績を 100 点法によって評価している。 規程第 12 条において、科目の成績評価が 100 点法による 60 点以上の者について、単位取得を認定している。また、第 9 条第 3 項により、「合格・不合格」の評語をもって評価された科目については、「合格」と評価された者について単位取得を認定している。 (2025 年度 5 年次) 規程第 10 条において、科目の履修については原則として総授業時間数の 3 分の 2 以上の出席を有する学生について履修を認めている。履修を認められた科目については、各科目担当教員が科目の特性に応じて「成績評価の方法」を定め、シラバスに記載している。各教員は、この「成績評価の方法」に沿って成績を 100 点法によって評価している。 規程第 12 条において、科目の成績評価が 100 点法による 60 点以上の者について、単位取得を認定している。また、特別研究、基礎研究、卒業研究及びインターンシップについては、「合格」と評価された者について単位取得を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価及び卒業の認定等に関する規程」第5条及び第6条に成績評価は試験の成績および平常の成績(課題等)を総合して100点法により担当教員が評価すると定めている。また、表記は1～4年次は秀、優、良、可、不可の5つの評語で、5年次は優、良、可、不可の4つの評語で表記することになっている。 学生が主体的かつ学習効果を上げる事を目的として、2022・2023・2024年度の学年末成績を用いた本科および専攻科のGPAを計算し、GPAの値とその分布を本校Webサイトで公表している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	・WEBサイトで公表 https://www.ct.omu.ac.jp/studies/gradeevaluation/gpa/index.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) (2025年度1～4年次) 本科では、教育の目的に沿った学生を卒業させるための方針として、5つの項目からなる卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)と「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価・学年の課程修了及び卒業の認定等に関する規程」を策定し、ホームページなどで公表している。具体的には、「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価・学年の課程修了及び卒業の認定等に関する規程」第23条に基づき、卒業要件をすべて満たした学生について全課程の修了を認め、同第22条により校長が卒業を認定する。 (2025年度5年次) 本科では、教育の目的に沿った学生を卒業させるための方針として、4つの項目からなる卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)及び4つの大項目と9個の小項目からなる達成目標と「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価・学年の課程修了及び卒業の認定等に関する規程」を策定し、ホームページなどで公表している。具体的には、卒業要件を満たし、かつ「大阪公立大学工業高等専門学校成績評価・学年の課程修了及び卒業の認定等に関する規程」第23条に基づき卒業認定方針を具体化した達成目標を満たした学生に卒業を認めている。「大阪公立大学工業高等専門学校運営組織規程」第26条に定めている修了認定会議において審議され、修了時に身に付けた学力や資質・能力、養成しようとする人材像等に対して達成されたことを確認し、校長が修了を認定している。 専攻科においても、本科と同様に6つの項目からなる卒業認定方針(ディプロマ・ポリシー)及び4つの大項目と8個の小項目からなる達成目標、大阪公立大学工業高等専門学校「総合工学システム」教育プログラム修了要件と「大阪公立大学工業高等専門学校専攻科の成績評価及び修了の認定等に関する規程」を策定し、ホームページなどで公表している。具体的には、「大阪公立大学工業高等専門学校専攻科の成績評価及び修了の認定等に関する規程」の修了要件を満たし、大阪公立大学工業高等専門学校「総合工学システム」教育プログラム修了要件及び修了認定方針を具体化した達成目標を満たした学生について修了を認めている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/ https://www.ct.omu.ac.jp/opuct/policy/index.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪公立大学工業高等専門学校
設置者名	公立大学法人大阪

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.upc-osaka.ac.jp/information/upco_info/financial/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.upc-osaka.ac.jp/information/upco_info/financial/index.html
財産目録	－
事業報告書	https://www.upc-osaka.ac.jp/information/upco_info/financial/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.upc-osaka.ac.jp/information/upco_info/financial/index.html

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：公立大学法人大阪 2024 年度 年度計画 対象年度：2024 年度）
公表方法：公立大学法人大阪の Web サイトで公開
https://www.upc-osaka.ac.jp/about/evaluation/upc_evaluation/
中長期計画（名称：公立大学法人大阪第 2 期中期計画・対象年度：2025 年度～2030 年度）

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：公表方法：Web サイトで公開（直近は、令和 4 年度） https://www.ct.omu.ac.jp/studies/efforts/self-assessment/
--

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

－

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 総合工学システム学科
教育研究上の目的（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/aims/
（概要） 大阪公立大学工業高等専門学校は、ものづくりの街大阪において、深く専門の学芸を教授し、創造力と高い倫理観のある実践的技術者を養成することを目的とし、その教育と研究の機能を活かして、地域及び産業の発展に寄与することを使命とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/ https://www.ct.omu.ac.jp/opuct/policy/index.html
（概要） （2025 年度 1～4 年次） 本校は、その教育目標と養成する人材像のもと、機械系と電子情報系の高い専門知識を身につけ、かつ地域と社会からの要請と自分がなすべき役割を認識し、自分と社会のより良いあり方を探求できる技術者を育成します。そのため、以下に示す能力を修得し、規定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。 （2025 年度 5 年次） 深く専門の学芸を教授し、創造力と高い倫理観のある実践的技術者を養成することを目的として、 1. 技術課題を自ら見出し、創造性を発揮して総合的に解決できる実践力を身につけた者 2. 論理的に考え、それに基づいて自己表現およびコミュニケーションができる能力を身につけた者 3. ものづくりにおける指導者としての基本的能力を身につけた者 4. 技術者としての地域社会や地球環境に対する社会的責任を自覚して、行動できる資質を身につけた者といった準学士と称するに相応しい能力と人間性を備え、かつ、第 5 学年の課程を修了した者に対して、卒業を認定する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/ https://www.ct.omu.ac.jp/opuct/policy/index.html
（概要） （2025 年度 1～4 年次） 総合工学システム学科共通の教育課程と 2 年次以降で展開する 4 つの基盤コースの教育課程を編成し、実施している。 （2025 年度 5 年次） 本科卒業時に、身につけるべき学力や資質・能力の達成を目的として、 1. 2 年次までは、一般科目および工学基礎科目を共通に学んだ後、3 年次からは、配属されたコースにおいて専門工学分野の知識・技術を教育する。 2. 一般科目等の学習によって社会人としての基本的素養を身につけさせることで人間性を養う。 3. 実験・実習などの体験的学習に重点をおいた専門科目の教育を通して、ものづくりおよび専門工学分野の基礎知識と基本技術を確実に定着させる。といった 3 項目の方針の下で教育課程を編成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/ https://www.ct.omu.ac.jp/opuct/policy/index.html
（概要） 求める人材像として（1）興味・関心、（2）資質・性格、（3）能力の3項目を定め、「小論文と面接による特別選抜」と「学力検査による選抜」の2種類の方法で選抜を行っている。

学部等名 総合工学システム専攻
教育研究上の目的（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/courses/advanced/
（概要） 専攻科では、本科で学習したことをさらに深めるだけでなく、より現場に即した技術を学び、自らの専門工学分野の知識と技術を深化させ、研究・開発を遂行することができる創造的・実践的技術者の育成を目的とする。
修了の認定に関する方針（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/index_32.html
（概要） 高等専門学校における教育の基礎の上に、より高度な工学に関する専門知識と技術を教授し、研究を指導することにより、創造力と高い倫理観があり、実践的な開発・研究型技術者を養成することを目的とする教育実践により、以下の6項目の能力と人間性を備え、かつ、第2学年の課程を修了した者に対し修了を認定します。 DP-1 技術者としての地域社会および地球環境に対する責任を自覚して、行動できる能力を身につけた者 【関係する達成目標：A-1、C-2】 DP-2 自らの専門技術を基盤として、他の領域や境界領域の技術を統合して独創的な技術を開発する総合化能力を身につけた者 【関係する達成目標：B-1、B-2、C-1】 DP-3 自ら発見した問題を、自ら解決でき、問題によっては異分野の技術者をコーディネートして解決する能力を身につけた者 【関係する達成目標：D-1】 DP-4 ものづくりにおける全工程の役割を体系的に理解して、実践的に行動できる能力を身につけた者 【関係する達成目標：D-1、D-2】 DP-5 ものづくりにおけるデザイン能力を身につけた者 【関係する達成目標：D-1】 DP-6 日本語および英語によるコミュニケーション能力を身につけた者 【関係する達成目標：A-2】
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web サイトで公開） https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/index_32.html

(概要) 「修了の認定に関する方針」に掲げられた 6 項目の能力と人間性を備えた技術者育成を達成するために、以下の 6 項目の方針の下で教育課程編成を行います。 CP-1 技術者としての地域社会および地球環境に対する責任を自覚して、行動できる能力を涵養するために、技術と社会との関わり及び地球環境への影響と社会の要求について学習する科目を配置する。 CP-2 自らの専門技術を基盤として、他の領域や境界領域の技術を統合して独創的な技術を開発する総合化能力を涵養するため、工学全般に基礎となる数学・自然科学・情報と各専門コースの知識・技術を学ぶ科目を配置する。 CP-3 自ら発見した問題を、自ら解決でき、問題によっては異分野の技術者をコーディネートして解決する能力を涵養するため、新しい発想による O J T (on-the-job training : 実地訓練) に基づいて、技術課題を自ら発見し、それらを創造的・総合的に解決することを学ぶ科目を配置する。 CP-4 ものづくりにおける全工程の役割を体系的に理解して、実践的に行動できる能力を涵養するため、システムを計画・設計・構築することを実践的に学ぶ科目と研究に関する科目を配置する。 CP-5 ものづくりにおけるデザイン能力を涵養するため、総合工学システムを学ぶ科目とゼミナール科目を配置する。 CP-6 日本語および英語によるコミュニケーション能力を涵養するため、日本語による成果発表を含む科目および英語コミュニケーション科目を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : Web サイトで公開) https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/policy/index_32.html
(概要) 本校の入学者受入方針は興味・関心 (ものづくりへの目的意識が明確な人、選択したコースの専門工学分野に関心があり、その分野で学士の学位を取得したい人)、資質・性格 (何事にも積極的に取り組めるチャレンジ精神が旺盛な人、自分で計画を立てて、ものづくり学習に打ち込める人、異分野を含めた周囲の人達と協力してものづくりに取り組める人)、能力 (しっかりとした基礎学力と専門的な知識・技術をもつ人、企業現場等学校外の学習の場でも積極的に活動でき、また社会的常識を備えた人) からなる求める人材像と入学者選抜の基本方針から構成している。 入学者選抜の基本方針は専門工学分野に関心があり、基礎的な学力・知識・技術を持っていること、基礎的な英語能力を持っていることを共通的な項目とするとともに、前期選抜では何事にも積極的に活動でき、周囲の人達と協力できること、後期選抜では数学および専門工学科目が得意であること、社会人選抜では実務経験があり、社会的常識を備えていることを重視している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : Web サイトで公開) https://www.ct.omu.ac.jp/about/outline/organization/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
総合工学システム学科 総合工学システム専攻	－	36 人	10 人	13 人	3 人	0 人	62 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		46 人					47 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：公表方法：Web サイトで公表 https://www.ct.omu.ac.jp/studies/teachers/staff/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
F Dについては、法人が実施する研究費や学生指導に関する研修等を周知すると共に、高専における課題や問題点に基づいた研修等を計画し、教職員会議後に実施している。また、ティーチング・ポートフォリオやアカデミック・ポートフォリオに関する研究会を設置し、年 2 回ワークショップを開催している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合工学 システム学科	160 人	161 人	100.6%	820 人	811 人	98.9%	10 人	8 人
総合工学 システム専攻	0 人	0 人	－%	40 人	22 人	55%	0 人	0 人
合計	160 人	161 人	100.6%	860 人	833 人	96.9%	10 人	8 人
（備考）2024 年度の入学者を最後に専攻科の学生募集を停止								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
総合工学 システム学科	143 人 (100%)	53 人 (37.1%)	89 人 (62.2%)	1 人 (0.7%)
総合工学 システム専攻	20 人 (100%)	8 人 (40%)	12 人 (60%)	0 人 (0%)
合計	163 人 (100%)	61 人 (37.4%)	101 人 (62.0%)	1 人 (0.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
総合工学 システム学科	160 人 (100%)	125 人 (78.1%)	16 人 (10%)	19 人 (11.9%)	0 人 (0%)
総合工学 システム専攻	20 人 (100%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
合計	180 人 (100%)	145 人 (80.6%)	16 人 (8.9%)	19 人 (10.6%)	0 人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 大阪公立大学工業高等専門学校のカリキュラムでは、授業科目名、担当教員名、授業の進め方、科目の達成目標、各回の授業内容、成績評価方法、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等の情報を示し、Web サイトを通じて公開している。 (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-reg/) (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-advanced/) 年間授業計画については、年間行事予定で公開している。 (https://www.ct.omu.ac.jp/campuslife/annualevents/)
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業の学修成果に関する評価の基準はカリキュラムに明示している。 (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-reg/) (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/classes/syllabus-advanced/) 卒業及び修了の認定に関する基準は、学則および評価認定規程に定めている。 (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/gradeevaluation/regulations-reg/index.html) (https://www.ct.omu.ac.jp/studies/gradeevaluation/regulations-advanced/)				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
本科	総合工学システム 学科	167 単位	有・無	単位
専攻科	総合工学システム 専攻	62 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：Web サイトで公開 https://www.ct.omu.ac.jp/about/campus/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
本科	総合工学 システム 学科	234,600 円	84,600 円	0 円	
専攻科	総合工学 システム 専攻	234,600 円	84,600 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生の経済面に係る指導・相談・助言は、主として担任、学生主事室及び学務課が対応している。高等学校等就学支援金、授業料減免、各種奨学金については、学生便覧や掲示、保護者宛手紙などで学生・保護者へ周知している。 高等学校等就学支援金（本科1～3年生対象）については、国の制度においては世帯年収590万円未満まで保護者負担額0円となるが、大阪府独自の制度により世帯年収が590万円以上であっても負担額が減額される。 大阪公立大学・大阪公立大学高専等の授業料等支援制度（本科4、5年生、専攻科生対象）については、国の制度に大阪府独自制度を上乗せし、負担額が減額される。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア教育支援室を置き、本科・専攻科ごとにキャリア教育5ヵ年計画・2ヵ年計画を企画（学年ごとの目標と行事を設定）してキャリア教育を実施している。このキャリア教育を実施するための本科・専攻科の各クラスに担任を置き、学生を直接的に支援している。特に、3・4年生に進学説明会や企業研究セミナーを実施し、進路選択の指導を計画的に実施している。キャリア教育のイベント情報等は学内ネットワークに掲載し、いつでも確認できるようにしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生委員会の中に学生相談室長を置き、保健室教員・担任・臨床心理士と連携し、学生の心身の健康等に支援する取組を行っている。 学生の悩みに対しては、保健室教員が窓口となり臨床心理士への橋渡しを行い、学生相談室長が情報共有および支援方法を担任へと繋いでいる。 学生が相談室を利用し易くする取組みとして、本校WEBサイトに「相談室だより」や「利用方法」等を掲載している。また、学生の健康管理のため保健室を設置し、4月に全学生に対して定期健康診断を実施しているほか、学校医と連携し、健康相談、保健指導を定期的に実施している。学生の疾病情報を保健室教員が年度ごとに取りまとめ、全教員（技術教育支援員）と情報共有している。特に注意が必要な学生とは年間を通し本人および保護者と連絡を取っている。 2025年度よりソーシャルワーカーを設置し、月1回学生支援の会議を実施して、学校生活に問題が生じている学生の支援を組織的に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Webサイトで公開 https://www.ct.omu.ac.jp/studies/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。